

前回の内視鏡機器の進歩の話題の中で、粘膜を観察する際に照射する光の波長を変えることが、診断に役立つことを簡単に紹介しました。血液中のヘモグロビンが405〜410ナノメートルの波長の光をよく吸収するため、血管が周囲より際立って見えるという特性を利用して、NBI（オ

リンパス社）あるいはBLI（フジフィルム社）という画像強調観察が可能な内視鏡が開発され普及してきました。粘膜表層近くの微細な血管は茶色く、やや深い層の血管は青緑色調に見えるので、食道や咽頭の観察の際に正常の粘膜は暗緑色調であるのに対して、がんのある部分は茶褐色調に見えることが多く、通常の白色



福本 学

■内科

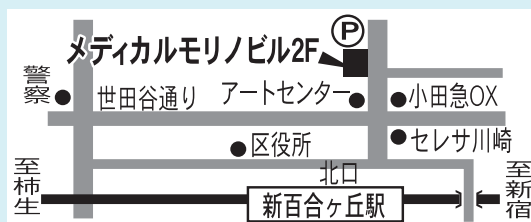
新百合山手福本内科

☎ 044-955-8877

麻生区万福寺 6-7-2

メディカルモリノビル 2F

<http://www.fukumotonaika.jp/>



光では認識が困難な腫瘍性病変も発見しやすくなります。さらに拡大観察を併用することで、血管の径や配列の不整、血管の見られない領域の所見などから病変の深達度を診断し、最適な治療法を決定することが可能になります。